報　　告

第 82 回日本歯科理工学会学術講演会報告

令和 6 年 4 月 20 日（土），4 月 21 日（日），第 82 回日本歯科理工学会学術講演会が鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科生体材料学分野　菊地聖史教授を大会長として，鹿児島県鹿児島市のカクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）にて開催された．鹿児島での開催は，平成 21 年の第 54 回学術講演会以来，15 年振りの開催であった．当時と同じ会場であったものの，時代の潮流で，ネーミングライツにより直前の 4 月 1 日よりカクイックス交流センターと名称が改められたばかりでの開催となった．一般演題では口頭発表 12 題（うち研究奨励賞応募口頭発表 3 題），ポスター発表 75 題の合計 87 題の発表が行われた．

初日の午前中は研究奨励賞応募口頭発表 3 演題の後に，ポスター発表が行われた．本学術講演会ではポスター発表の会場を 2 階の大ホールとし，広いスペースを有効活用し，2 日間にわたりすべてのポスターを掲示する形式とした．討論は初日が奇数番号，2 日目が偶数番号とすることで，密集を避けながら活発な議論が行われた．初日午後の特別講演では，鹿児島大学農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター教授　髙峯和則先生に「芋焼酎の風味を科学する」と題してご講演を頂いた．本格芋焼酎とはいかなるものかという話から芋焼酎の風味形成に及ぼす要因に関する科学的な分析など，鹿児島名産の焼酎を基にその魅力を余すところなくお話しいただいた．その後の懇親会へと繋がる，大変有意義なご講演であった．

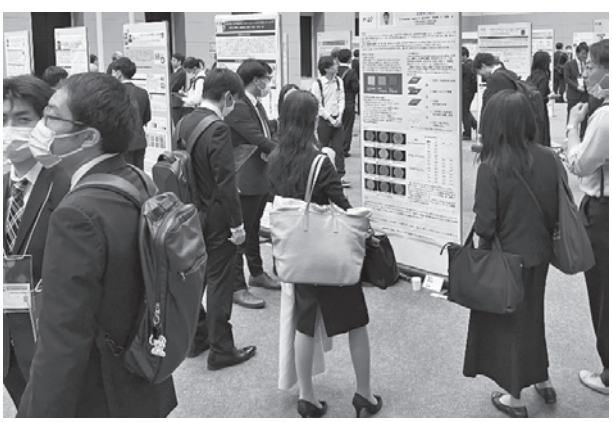
夕方からは城山ホテル鹿児島にて，コロナ禍以降では初めての立食形式で懇親会が開催された．送迎バスの定員の関係から参加者は 154 名であった．懇親会では，研究奨励賞ならびに企業賞の授与式も執り行われた．特別講演の余韻か，皆々様用意した地元焼酎を片手に大いに盛り上がった懇親会と相成った．

2 日目は午前の口頭発表，ポスター討論に続き，3 階研修室にてランチョンセミナーおよび Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナーが行われた．特別セミナーは「メタルレス治療を目指した新しいブリッジ修復材料」と題し，YAMAKIN 株式会社　山添正稔氏にご講演をいただき，事前申し込みをいただいた先生方により会場は盛況となっていた．午後からの学会主導型シンポジウムでは，「口腔検査装置アップデート」と題し，松本卓也先生（岡山大学学術研究院）をモデレーターとして，島田康史先生（東京医科歯科大学大学院），松香芳三先生（徳島大学大学院）ならびに森田　学先生（宝塚医療大学，岡山大学）にご講演をいただいた．最後に，口頭発表 2 演題が行われ，日本歯科大学新潟生命歯学部の大熊一夫先生による次期大会長挨拶を持って，学術講演会の全日程を終了した．

末筆ながら，新年度初頭のお忙しい中，多くの先生方が鹿児島という南端地での学術講演会にご参加くださいましたことに厚く御礼申し上げます．先生方の今後益々のご活躍とご健勝を祈念して，本学術講演会の報告とさせていただきます．

河野博史
（鹿児島大学歯科生体材料学分野）

学会主導型シンポジウム



ポスター会場